

2024年7月5日（金）19：00～20：30

松川町農村観光交流センターみらい

令和6年度第1回 松川町農業振興会議 議事録

1. 開会・進行

下井課長

2. 自己紹介

3. 役員選出

農業委員会会長 松下敏章氏

農村生活マイスター代表 松下文子氏

4. 挨拶

松下敏章会長

5. 協議事項

(1) R6事業計画について

- ①農業従事者・農地面積・遊休農地の推移
- ②各種補助金について（農業支援・農地整備）
- ③担い手育成事業について（新規就農者支援・果樹研修制度）
- ④各種団体支援について（認定農業者・畜産協議会・農技連・労働力確保・若武者・人と自然にやさしい農業連絡会・女性グループ等）
- ⑤グリーンツーリズムについて
- ⑥農地の賃貸借・売買事業について
- ⑦地域計画（人農地プラン）の策定について

質問・意見

長野県農業経営士協会 宮澤理事

農地の貸し借りや売買について、購入者あるいは販売者（売り手）の方が指名をして行われていくと思うが、近所の農地が所有者でない人にうつる場合、隣地の人に一言でも挨拶があるのが普通だと思う。挨拶なしに貸借や売買が行われているのではないかと。農業委員はそういった配慮が欠けているのではないかと。突然持ち

主が変わっており、それを知らないことがある。まずは隣に確認を取るべき。取引は個人所有者の勝手ではあるが、隣地としては非常に困る。隣地に了承を得るわけではないが、事前に話してもらいたい。

松下会長 貴重な意見でありがたい。実は農業委員会も毎月定例会を行っているが、農業委員からも同様の意見が出た。地元の農業委員が知らない間に取引が行われていることはおかしくないか、隣地や地元農業委員委は事前に話をしてほしいと事務局に要望している。

長野県農業経営士協会 宮澤理事 凍霜害対策の燃焼資材で、デュラフレームは価格が高く、増野地区で3時間もつといわれているが実際には2時間燃えて1時間はくすぶっているだけ。ペール缶に灯油を入れたものは、確実に3時間燃える。これは汎用性があるため、補助金の対象とならないと言われ続けてきたが、そんな時代ではないのではないか。凍霜害対策の燃焼資材としてとても大事なものになるため、ペール缶と灯油も対象となるようお願いしたい。

事務局 以前よりお伝えしている通り、ペール缶と灯油を補助対象とすることは難しい。デュラフレームの補助率を上げてほしいといった意見もあるので、そちらは検討可能だと思っている。

長野県農業経営士協会 宮澤理事 証明する方法はあると思うが。

事務局 それを始めると事務が細かく、煩雑になってしまう。

長野県農業経営士協会 宮澤理事 当然である。

事務局 本人だけの証明では意味がないので、どこかに証明をもらってきてもらうことになる。難しくなってしまうため、しない方がいいと思う。証明が本人だけでは、何でもできてしまう。

長野県農業経営士協会 宮澤理事 本人だけでも、写真を撮る、使用料を記録に残す等して、申告していく。

事務局 では必要量はどのくらいか。きっちり示してもらいたい。

人と自然にやさしい農業連絡会 米山会長 今年低温被害はなかったが、来年以降どういう状況になるかは分からない。低温で凍霜害による受精不良というのが一番最悪の為、昨年、おととしと皆さんがご苦労されている中で、補助率を上げる、補助金を使いやすいようにしてもらおう等、何らかの対応をしていただくと、皆さんがより高い意識で取り組んでいけると思う。燃焼資材のことだけだが、防霜ファンや設置にも補助があるので、改めて情報を皆さんに周知して頂きたい。

松下会長 今の意見も含めて、補助ができる範囲の中でもう1度検討していただきたい。

長野県農業経営士協会 宮澤理事 梨の苗木の補助は、JAから買った際の領収書があればいいのか。

事務局 苗木に補助するというよりは、V字やY字で梨の栽培をする際に購入する苗木に対して支援していく。自分で建ててやっていくのであればそれは良いが、たいがいやる際には果樹経にだす想定である。10aあたり80本が必要。

長野県農業経営士協会 宮澤理事 JAでなくてもよいか。

事務局 大丈夫だが、苗木を買うだけでは補助対象とはならない。

JA 松川支所営農課 坂巻課長 V字やY字の省力樹形、省力栽培が対象である。

(2) 松川町農業基本計画の策定について

質問・意見

JA みなみ信州農業協同組合 木下理事 第3章の1で、「ゆうきの里」としっかり記載されているが、ここで見ると「ゆうきの里」というのを前面に押し出していくように感じるが、その辺の割合、考え方をもう少し整理してもらった方が良い。現実的でないことをあまり大きく出しても困ると思うので、検討いただけたらと思う。

事務局 「ゆうきの里」と入れることに悩んだが、みどりの食料システム戦略の関係で、オーガニックビレッジ宣言をさせてもらった。オーガニックビレッジ宣言の中では、“環境保全型農業推進しましょう”というような、有機をやっていくぞ という形にはなっていないので、そういった思いで、こちらに「ゆうきの里」といれた。オーガニックビレッジ宣言とは、子どもたちの成長とともに松川町の農業も発展していきましょう、という形にしているので、ここに入れているが、ご意見をいただければ。

長野県農業経営士協会 宮澤理事 新聞でも全国で100市町村あまりが宣言をしており、その中に松川町も入っているということは、今まで活動されてきたことは必ず町の肥やし、発展になるという風に思う。特に主業たる果樹の中にこういったものを盛り込んでいっていただきたい。

(3) グリーンみらい・まつかわの運営について

質問・意見

ゆうき給食とどけ隊 久保田会長 今後の導入予定の機械があれば教えていただきたい。

事務局 グリーン・みらいですぐに導入できる機械はないと思っている。町で何か事業をやり、補助金を受けてできるものがあればという形になっていくと思う。たい肥散布機を、ゆうきの里を育てよう連絡協議会の方で補助金と融資を受けてやっているため、融資を返済しなくてはいけないので、ぜひ活用してほしい。今は新しいものは考えていない。

(4) 有機農業産地づくり支援事業について

質問・意見 なし

全体を通しての意見

JA みなみ信州農業協同組合 木下理事 JAの理事の立場でもあるのだが、研修生にアドバイザー的なことをしている面からお願いがある。JAの会議の中でもあがったが、果樹研修制度が始まって5年、課題がはっきりしてきたのではないかと。1番は住宅の問題。農地よりも先に住宅の問題がでてきているので、それぞれの皆さんが持つ

ておられる自分の中のデータベースを共有できるようなシステム作りができないだろうか、というのを特にお願いしたい。いろんな条件が付いて回ってくる仕事だとは思う。それさえクリアすれば、仮に来てもらって、車で5、10分であればどうにかなる話にはなってくる。30分をかけて行かなきゃいけないようなところを畑に借りるなんてこともなくなるだろうし、そういった部分で、もっと研修生がこの地に根付かせるやり方を検討する場を考えていただければ。特に基本計画にも絡んでくる話になってくるので、よろしくお願いしたい。

事務局 サポート会議も実施したいと考えているので、お願いしたい。

松下会長 町で把握している空き家情報とのマッチングは難しいか。

事務局 空き家バンクに実際に出ているところで、マッチングしたところはないと思う。探してきて、決めてから空き家バンクに登録してもらい、決定するということが多い。空き家バンクにでているところも紹介するが、本人たちの希望するところもある。

松下会長 ぜひとも貸してもいいといった情報があれば、事務局の方へ連絡してもらいたい。

JA みなみ信州農業協同組合 木下理事 私どもは農協だが、町の中でもいろんなところでそういった情報を集めていると思う。憶測で申し訳ないが、その情報が町の中でも共有されているとは言い難い。そういったところを、総合的にみられるようなシステムをぜひ作ってもらいたい。そこに農業が一つの分野として入っていけるような組み立てをお願いしたい。

6. 各団体からの活動及び課題・提案事項などの報告

認定農業者連絡会 松尾会長 今年度の事業として、視察研修、学習会、講演会、農業委員会との意見交換会を計画している。課題としては、今年度で認定農業者の認定の期限が切れる方が多数いる。認定期間は5年の為、5年後には、次の5年間の取り組み計画を作成し、再度認定を受けるといような流れである。今回期限を迎える多数の農家から、「認定はもういい」という人が出来るだけでないようしていきたい。

若手農業者の会若武者 知久代表 今年度は、学習会、視察研修、イベント交流会、秋と冬の販売体験会を計画している。9月に開催予定の若武者マルシェは規模を縮小、場所はみらいで、会員の農産物の販売がメイン。

人と自然にやさしい農業連絡会 米山会長 10月下旬にふじの立木検討会と、11月下旬にふじの品評会の開催を予定している。年間を通して、栽培管理に関する情報収集、研修等も随時行っている。近年の状況として、松川町では昨年より5日開花が遅かったが、生育としては追いついてきている。松川町もそうだったが、全国1位の生産量を誇る青森県で、開花は早かったが、ふじの花数が少ない、花芽かと思ったら花が咲かなかったというのが報告されている。そのため、全国的に生産量が若干減るのではと感じている。近年の気候変動の中で、顕著にそういったことを、直接果樹が、樹体が感じて、花芽が出来ずに生育がとまってしまう。実際には昨年の夏の

干ばつ、猛暑、最後の手順の中で、いろんな問題があるのではないか。ふじに関して言うと、近年 12 月の月上旬まで収穫をしている。収穫始めが遅くなっている。理由は秋の低温がないと、蜜が入ってこないから。蜜入りが進んでないと、おいしいふじとは言えない。去年は、11 月の 20 日過ぎから本格的な収穫が行われている。山形県も同様。青森県は雪が降るため、11 月の中旬までにとり終わらなくては行けない。作業としては早どりになってしまう。気象の変動が顕著に出てきている中で、作り手としてとり剪定にはこだわっていかないと、きちんとした花芽が出来ずに生産量が不安定になるということを感じている。遅い人は 7 月の下旬まで摘果をしている。作業の順番からいくとふじは後回しになってしまう。早い段階でふじの摘果を進めていかないと、その後に影響がでてしまう。今年の夏は昨年よりも暑くなると言われているので、作業の中でいろいろ課題があると思う。松川町は、ふじに関しては新ワイ化の比率より樹の比率の方が高いわけだが、剪定によってよい樹作りをすることによって、より長く実をとり続けられる状況を作りだせれば、ある意味差別化となる。また、さくらんぼは、山形県が全国 1 位の生産量であるが、高温が続いたことにより今年是最悪だった。果実が製品にならなかった。10 日ほど成熟機関が早まっている。こういったことも来年以降の課題となっているので、情報共有しながらやっていきたい。

MATSUKAWA 農業女子（スカーレット） 武中代表 会員数 50 名とあるが、LINE 登録者数であり、コアメンバーは十数名。今年度は、自分たちの圃場を中心とした地図作り、ヨガ教室、ワイナリー見学を実施予定。スカーレットでは松川産のものでお土産となるお菓子の製造、販売を予定しているが、加工所がないため活動が思うようにできないような状況。

JA みなみ信州農業協同組合 古瀬支所長 全国的に農産物、農機具、資材の盗難が増えている。農村地帯では、側溝のグレーチングまで盗まれている状況。トラクターなどは、納屋に入れてあってもワイヤーチェーンをするなどの対策をしていただきたい。

くだもの観光協会 代田会長 さくらんぼはほぼ終了している。観光バスの台数は、高森と松川で合計 190 台。松川の方が比率が高く、昨年よりだいぶ増えた。佐藤錦を中心に、高温障害がでたため、減収の皆さんもいる。県の木下係長に相談したところ、初めての悪い体験をしてしまったとのこと。着果量は少なめだったのでは。

7. 閉会

松下副会長